

NPO法人School Voice Project  
**2022年度事業報告書**



〒105-0013 東京都港区浜松町2丁目2番15号 浜松町ダイヤビル2F  
MAIL [info@school-voice-pj.org](mailto:info@school-voice-pj.org) | WEB <https://school-voice-pj.org>

- 2022年8月19日(法人設立)～2023年3月31日 -

# Mision / Vision

学校現場の声を見える化し、対話の文化をつくる。  
大人も子どももしあわせな学校 / 民主的でインクルーシブな学校

NPO法人School Voice Project(以下SVP)は、学校で働く教職員のエンパワメント(=変えていける実感の醸成)が、子どもたちのエンパワメントにつながるという信念のもと、山積する学校現場の課題を教職員の声の力で変えていくプラットフォームとして活動しています。

具体的には、1.)学校現場の声”を見える化するWEBアンケートサイトとWEBメディアの運営、2.)政策提言・ロビイング活動、3.)教職員コミュニティの構築、4.)イベント企画等を実施しています。

## ● 2022年度事業報告のハイライト

- 任意団体→NPO法人に！22名の理事と共に改めて始動。
- WEBアンケートサイト「フキダシ」、安定的にルーティンが回るように。
- WEBメディア「メガホン」リリース。3月末までに月間PVが約1.5万に成長。
- オンラインコミュニティ「エンタク」を開始。80名が入会。
- クラウドファンディングで250万円の寄付が集まる。
- 「学校の居心地pj」が株式会社Yogiboの広告協賛企画として採択。

## ● 1年間の主な動き(ロードマップ)

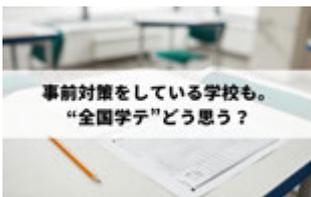
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
全体	NPO法人設立準備					メガホン 立ち上げ クラファン								
事業	政策提言・ロビイング   教員不足問題を中心に、国会議員・文科省・教育委員会等との面談・対話を実施													
	フキダシ   月3本程度をコンスタントに実施													
							メガホン   アンケート結果記事、インタビュー、解説記事等をUP・適宜							
	コミュニティマネジメント   イベント開催、情報保障、会議開催etc													
他	エンタク   リリース準備・システム構築・説明会開催													
						● 教員不足cpシンポジウム		● インクルーシブ教育 イベント		● 議員対話イベント@大阪		● 議員対話イベント @大阪		
						● 新年度準備期間洗い出し		● 新年度準備cpイベント					×Yogibo「学校居心地pj」	

- 事業ごとの報告

## 教職員WEBアンケートサイト・WEBメディア運営事業

### → 教職員を対象としたWEBアンケートサイト「フキダシ」運営

インターネット上で、教職員に向けたアンケートを毎月3本程度、継続的に実施し、学校教育をめぐるさまざまなトピックについて、現職教職員の意見や思いを収集しました。





※こちらに掲載した画像は、  
法人設立以後～2023年3月31日までに  
フキダシで実施したアンケート一覧です。

### <DATA>

- ・フキダシユーザー数(2023年3月31日時点): 1,594名
- ・ユーザーの増加数(2022年8月19日～2023年3月31日): 341名
- ・アンケート実施数(2022年8月19日～2023年3月31日): 30本
- ・アンケート総回答数(2022年8月19日～2023年3月31日): 1,521件
- ・3月時点の月間PV: 5,473PV

### <成果と課題>

- ・月3本程度の継続的にアンケートを実施することができ、ルーティンワークが整理されてきました。
- ・アンケート結果をもとにしたロビイング活動が展開でき、「教員不足をなくそう！緊急アクション」等で一部成果を出すことができました。
- ・ユーザー登録者数は、じわじわと伸びているものの、年度末までの目標(5,000人)には大きく届きませんでした。
- ・アンケート回答数は、アンケートテーマによってかなり差がある。一部教員不足関連のアンケートを除けば、多い時で100件強、少ない時で30件を下回る状況にあり、年度末までの目標(ここぞというアンケートで500件の回答を得る)には大きく届いていません。
- ・分析システムの整備、広報(メルマガ配信・SNS投稿)の一部を自動化することができ、大きな業務効率化を図ることができました。

-----





※こちらに掲載した画像は、法人設立以後～2023年3月31日までにメガホンに掲載した記事のうち、教職員アンケート結果まとめを除くものです。その他、ラジオ(音声番組)、動画も掲載しています。

#### <DATA>

・公開コンテンツ総数: 記事103本 | ラジオ14本 | 動画4本  
 ・3月時点の月間PV: 14,333PV

#### <成果と課題>

- ・公開時期の目処としていた9月中に無事にリリースすることができました。外注先のデザイナー、コーダーとの連携のもと、質の高いクリエイティブを実現することができたと自負しています。
- ・記事の内容、質に関して、教育関係者から一定の評価を得ることができています。
- ・解説記事を中心として、徐々にSEO検索に引っ掛かるようになってきており、PVが伸びるようになってきました。ただ、まだまだ発信力が十分ではないため、今後は、PVをさらに伸ばしていきたいです。
- ・当初想定していた「家事をしながら、移動しながらアクセスできるコンテンツ」としては、ラジオ・動画での発信が不十分なこともあり、まだまだ定着しているとは言えないため、改善が必要です。

## 政策提言・ロビイング事業

### → 現場発の政策提言/ロビイング活動の実施

WEBアンケート等で集まった現場教職員の声を踏まえ、記者会見等を行なってメディアに向けた発信をしたり、政党や議員、文科省・教育委員会との意見交換・対話を実施したりしてきました。



### <活動の記録> ※は法人設立以前

- 記者会見
  - 5月 | 教員不足をなくそう！①「アンケート調査の結果と緊急提言書の発表」※
  - 6月 | 教員不足をなくそう！②「教員不足への対策について提言」※
  - 11月 | 教員不足をなくそう！③「第2回アンケート調査の結果報告」
- 国会議員・地方議員との面談・対話
  - 5月 自由民主党 山本朋広衆議院議員※
  - 7月 日本維新の会 音喜多駿参議院議員※
  - 8月 日本維新の会 金村龍那衆議院議員※
  - 9月 国民民主党 田中健衆議院議員
  - 9月 日本維新の会 高木佳保里参議院議員
  - 11月 横須賀市議会議員有志の皆さん
  - 2月 自由民主党 中村裕之衆議院議員
  - 2月 立憲民主党 国会議員の皆さん
  - 2月 関西無所属ネットワーク有志の皆さん
- 文科省・教育委員会との面談・対話
  - 5月 | 文科省 | 「#教員不足をなくそう！緊急提言書」の手交と意見交換※
  - 5月 | 東京都教育委員会 | 教員不足問題に関する意見交換※
  - 7月 | 大分県教育委員会 | 教員不足問題に関する意見交換※
  - 8月 | 文科省 | 特別支援教育4.27通知についての意見交換※
  - 8月 | 大阪市教育委員会 | 教員不足問題に関する意見交換※
  - 11月 | 文科省 | 教員不足問題に関する署名提出と意見交換
- その他
  - 6月 | 各政党×現職教職員「学校の現実をめぐる対話会」※

- (公明・立憲・維新・国民・共産・れいわ・社民が参加)
- 8月 | #教員不足をなくそう！キャンペーンイベント  
(ゲスト: 水川和彦岐阜市教育長・細田真由美さいたま市教育長)
- インクルーシブ教育通知(面会: 文科省1回、イベント1回)
- 新年度準備を十分に(調査のみ)

#### <成果と課題>

- ・記者会見やメディアとの渉外の手順やコツを掴み、スムーズな発信ができるようになりました。
- ・アドバイザーの皆さんのご助力もあり、設立1年目にして数多くの政治家、教育行政関係者の方とお会いし、直接現場の声を届けることができました。ただし、SVP自体が団体単体として政治家や文科省・教育委員会の方に認知されているとは言えない部分もあります。ロビイング団体として認知され、さまざまな関係者の方々との対話ができる関係性を築くことができるよう努力を続ける必要があります。
- ・国政においても、地方政治においても、与野党それぞれの政治家の皆さんと関わりを持つことができた点は、SVPとして独自のポジションを構築していくうえで意味のあることでした。今後もこの点は意識していきたいです。

---

## 教職員コミュニティ構築事業

### → アンバサダーマネジメント

立ち上げの際から、SVPの活動に共感・賛同し、参画してくれている現職教職員や元教職員(アンバサダー)に向け、内部限定のイベント開催したり、ミーティングへの参加を呼びかけたり、情報保障を丁寧にしたことで、関係構築とより深い参画を図ってきました。(Facebookグループと下記の「フキダシサロン」の限定チャンネルを活用)

### → 「フキダシサロン」の運営

WEBアンケートサイト「フキダシ」のユーザーを対象として、ビジネスチャットツールSlackを活用したオンラインコミュニティを運営。スレッド上でのコミュニケーションや、オンラインビデオ通話システムを活用したコミュニティづくりを行ってきました。

### → エンタクをオープン

有料・紹介制・現職教職員もしくは元教職員限定のオンラインコミュニティを3月にオープン。OSIROというツールを活用することを決め、それに向けて準備を進めてきました。「リニューアル説明会」や資料共有などもなるべく丁寧に行い、3月末日時点で、もともとFacebookグループに入っていた160名のうち、80名が移行してくれました。

#### <成果と課題>

- ・Facebookのアンバサダーコミュニティは、入ったものの「入っただけ」になっている人にとって居心地が良いとは言えず、「手伝えなくてごめん」という声がよく聞かれる状況にありました。また、タイムラインが1つであるため、事務局以外のメンバーが書き込む心理的ハードルが高く、「連絡手段」ではあるものの「コミュニケーションの場」にはなかなかなれませんでした。参画意識もばらつきが大きかったと思います。
- ・Slackで運営していた「フキダシサロン」は、Slackの使い方が分からないという声が多く、チャンネル分けをうまく機能させられずにいました。ただ、Facebookをしていなくてもアクセスできるという利点がありました。
- ・新たにOSIROを導入してオープンした「エンタク」では、イベント情報がわかりやすくなり、チャットでのコミュニケーションも徐々に増えつつあります。特定のSNSをしていなくても参加してもらうことができ、有料化したことで継続的な収入源づくりにもつながりました。

・一部、移行の意思があるもののまだ「エンタク」に入会できていない旧アンバサダーの方がおり、そのサポートを引き続き行う必要があります。また、引き続きメンバー（仲間）を増やしていくことが、活動の広がりを生み、安定的な活動基盤（財源）づくりにもつながるため、力を入れたいところです。

---

## ワークショップ・イベント事業

### → 主催イベントの開催

学校教育をめぐるさまざまなテーマについて発信するとともに、全国の教職員や学校教育に関心を寄せる市民が交流できるイベントを実施してきました。

<イベント開催の記録> ※は法人設立以前

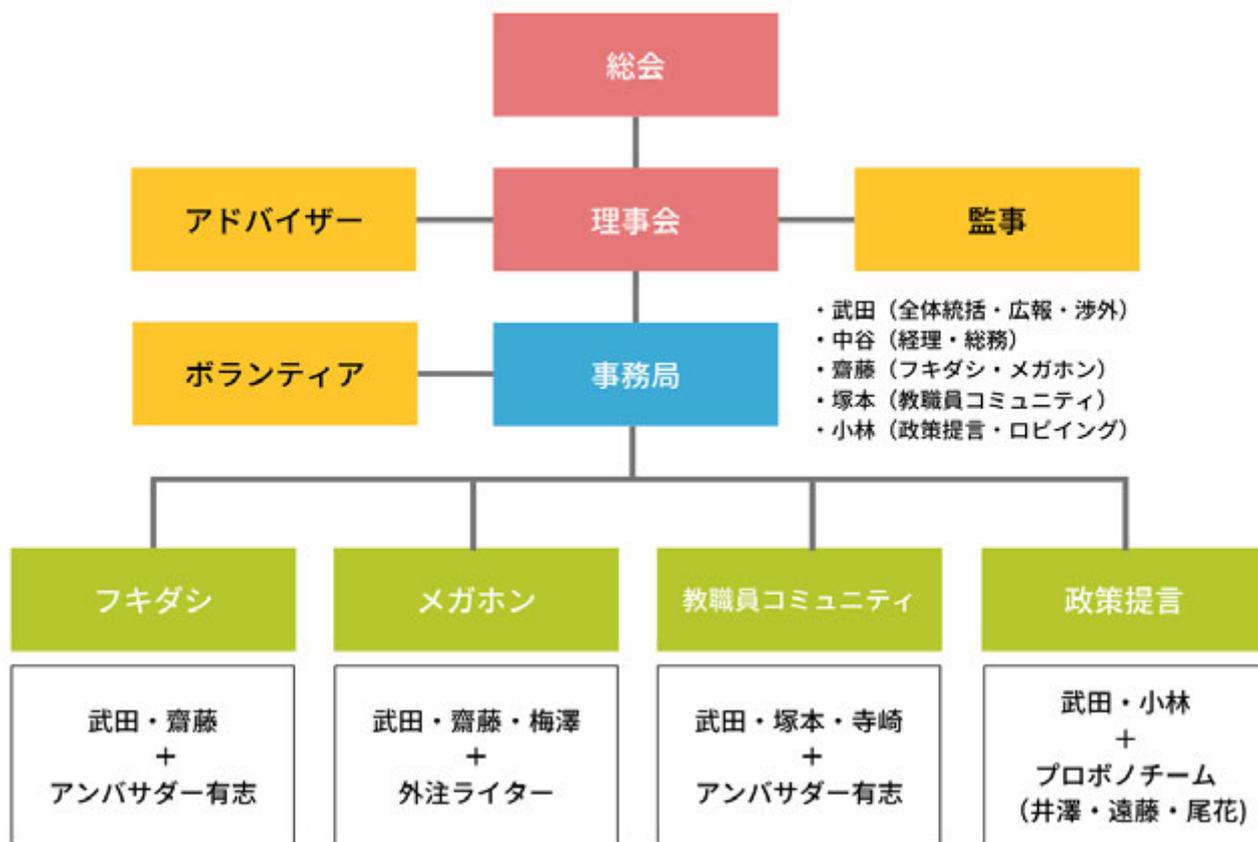
- フキダシカフェ
  - 5月8日 | #4 今年度やってみたいこと(20名)※
  - 7月3日 | #5 うれしかった話を、しませんか？(22名)※
  - 9月25日 | #6 自分の教育観を見つめてみませんか？(20名)
  - 2月5日 | #7 学校で働く魅力、語り合いませんか(10名)
  
- 議員向け勉強会
  - 6月9日 | オランダにおける多様な教育の姿と日本におけるイェナプラン教育の事例(30名)※
  - 7月31日 | 教員の多忙化に伴う教育課題解決に向け、裁量・権限の所在を理解して政策提言につなげよう(24名)※
  - 9月30日 | 日本と世界の多様な教育の姿から、公教育の未来を考えよう(18名)
  - 11月21日 | 文科省元担当者と現職教員に聞く 文部科学省CBTシステム(MEXCBT)の活用と可能性について(4名)
  
- その他
  - 6月17日 | 各政党×現職教職員「学校の現実をめぐる対話会」(30名)※
  - 7月31日 | 『特別支援学級及び通級の運用変更について』語り合う会 ～文科省通知「特別支援学級及び通級による指導の適切な運用について」を受けて～(98名)※
  - 8月17日 | #教員不足をなくそう！～今できること、すべきこととは？～ | 現状を共有し、解決の道を探る公開オンラインシンポジウム(231名)※
  - 10月1日 | #新年度準備を十分に！～現状を改善するために各自治体でできること～(13名)
  - 10月10日 | 「特別支援学級および通級の運用変更」について情報交換しませんか？(13名)
  - 11月23日 | DPIの崔さん×学校教員で考える 日本のインクルーシブ教育のこれから～世界各国の事例を手がかりに～(参加者:34名)
  - 1月29日・2月19日 | 教職員×議員 学校の現実を本音で語る会 in 大阪(77名)

<成果と課題>

・フキダシカフェは、理事・アンバサダーによる有志のボランティアチームによって安定的に運営され、リピーター参加者も多く、満足度の高い場になっている。

- ・議員向け勉強会は、地方議員の方を中心に多くの参加があり、ネットワークづくりという意味でも、議会質問に活かしてもらおうという意味でも、有意義な機会になっています。
- ・その他の企画は、ロビイングや時事的なトピックと連動して実施し、多くの方に関心を寄せていただくことができました。企画立案が事務局主導になり、理事やアンバサダー、ボランティア、フキダシのユーザーの興味関心や問題意識などを反映することがあまりできなかったのが反省点です。

- 組織体制について



→ 任意団体からNPO法人へ

2022年年明けから準備を始め、2022年8月に無事に東京都から認証を受け、NPO法人化することができました。発起人である武田の個人事業のプロジェクトの1つになっていた状況から、公共性の高い活動内容に見合った組織形態を取れたことで、社会的な信頼を得やすくなると同時に、より民主的で透明性の高い組織運営が求められることになりました。その責任を果たしていきたいと考えています。任意団体としての活動開始時点から参画してくれていたアンバサダーの中から、21名が理事、1名が幹事に就任。発起人の武田ではなく、現職教員である大野が代表理事に、加藤が副代表理事に就任したことも、「教職員によるネットワーク団体」として、意義があると考えています。

→ 事務局体制について

実務としては、非常勤・有給の事務局メンバー5名が業務を分担し、それに有志のアンバサダー(理事を含む)やボランティアが協力するかたちでの組織運営となりました。

→ 意思決定体制について

設立総会で承認された方針をもとに運営することができました。理事会については、3ヶ月に1回、定款上の理事会を行い、そこで事業の報告と方針等について議論し、決定してきました。それ以外の月にも理事メンバーで集まっての交流・意見交換会を実施しています。

一方で、アドバイザーの皆さんとは、事務局が個別に連絡を取り、ご協力を仰いだり相談に乗っていただいたりはしているものの、すべての方に呼びかけるかたちでのミーティングを今年度は設定することができなかつたことが反省点としてあります。

## → 財政基盤等について

2022年度は、寄付収入をもとに活動を展開しました。夏にはWEBメディア「メガホン」立ち上げに向け、寄付型クラウドファンディングを実施。264名の方から、251万円の寄付をいただくことができました。

また、寄付ページから直接、単発・継続の寄付ができる公式WEBサイトを整備し、寄付募集を強化する基盤をつくることができました。さらに、「エンタク」ができたことで、「仲間が増えれば活動資金も増える」という状況をつくることができました。さらなる寄付や「エンタク」メンバー募集は今後の課題です。

## 番外編：株式会社Yogiboとのタイアップ企画「#学校の居心地プロジェクト」

子どもも大人も居心地のよい学校づくりを進めるため、現場と連携した試行実験や情報発信を行う「#学校の居心地プロジェクト」を株式会社Yogiboの協賛のもと、スタートしました。このプロジェクトの実施によって、学校における「物的・空間的環境」「居心地」について考える機会を、検証校をはじめとする全国の学校現場に届けることを目指します。



日本の学校が、子どもたちにとってより幸せで多様性を受けとめられる場所になるためには、人間関係や学習方法ももちろんで、物的・空間的な環境をと、う組み替えていくか、という視点も大切です。このプロジェクトでは、以下の取り組みを行います。

1. 全国から公募した5つの学校のさまさまな場所(教室、職員室、廊下、図書室、保健室、相談室など)にYogiboを設置。子どもたちや先生たちの、心や、学び、関係性にどんな影響を与えるのかを探ります。
2. 上記の検証結果や「(物理的・空間的な意味での)居心地」に特化した取材記事をWebメディア「メガホン」で随時発信。学校運営に「居心地」という概念が浸透することを後押しします。
3. 「学校の居心地」をテーマとしたイベントを開催。Yogibo設置の検証結果の報告や、全国での先進事例のオンラインイベントで紹介し、居心地のよい学校づくりの機運を盛り上げます。